

パンケ沼シジミ資源保護対策事業について

【シジミ資源量の推移】

シジミ資源量は昭和60年の524tをピークに減少しており、平成23年からは10t未満で推移しています。
平成26年からはパンケ沼でのシジミ漁は原則禁漁となっています。
現在も自然条件下での大規模な資源発生は見られない状況にあります。

【減少の要因】

- ①パンケ沼周辺地域からの長期間にわたるシルト・粘土分の流入と堆積による底質環境の悪化⇒浮遊幼生の着底や潜砂行動の困難化
- ②河川環境の変化に伴う塩水遡上の変化⇒低塩分化によるシジミ生息・産卵環境への影響

【パンケ沼の覆砂事業の目的と必要性について】

パンケ沼の底質粒度は、シジミ漁場としては極めて高いシルト・粘土分含有率となっています。
これはシジミの生息にとっては良好な環境とはいえず、資源の減耗要因の一つと考えられています。
そこで、「覆砂」を実施することにより、底質環境を改善し着底稚貝の生残率を高め、シジミ資源の回復を図ることが目的となります。

【覆砂の効果】

- ①底質環境の改善
- ②着底稚貝数の増加、移殖貝の良好な生残(高回収)が確認されています。

覆砂による効果の試算結果では、令和9年頃にシジミ資源量は100tに達すると考えられています。

〔用語の説明〕

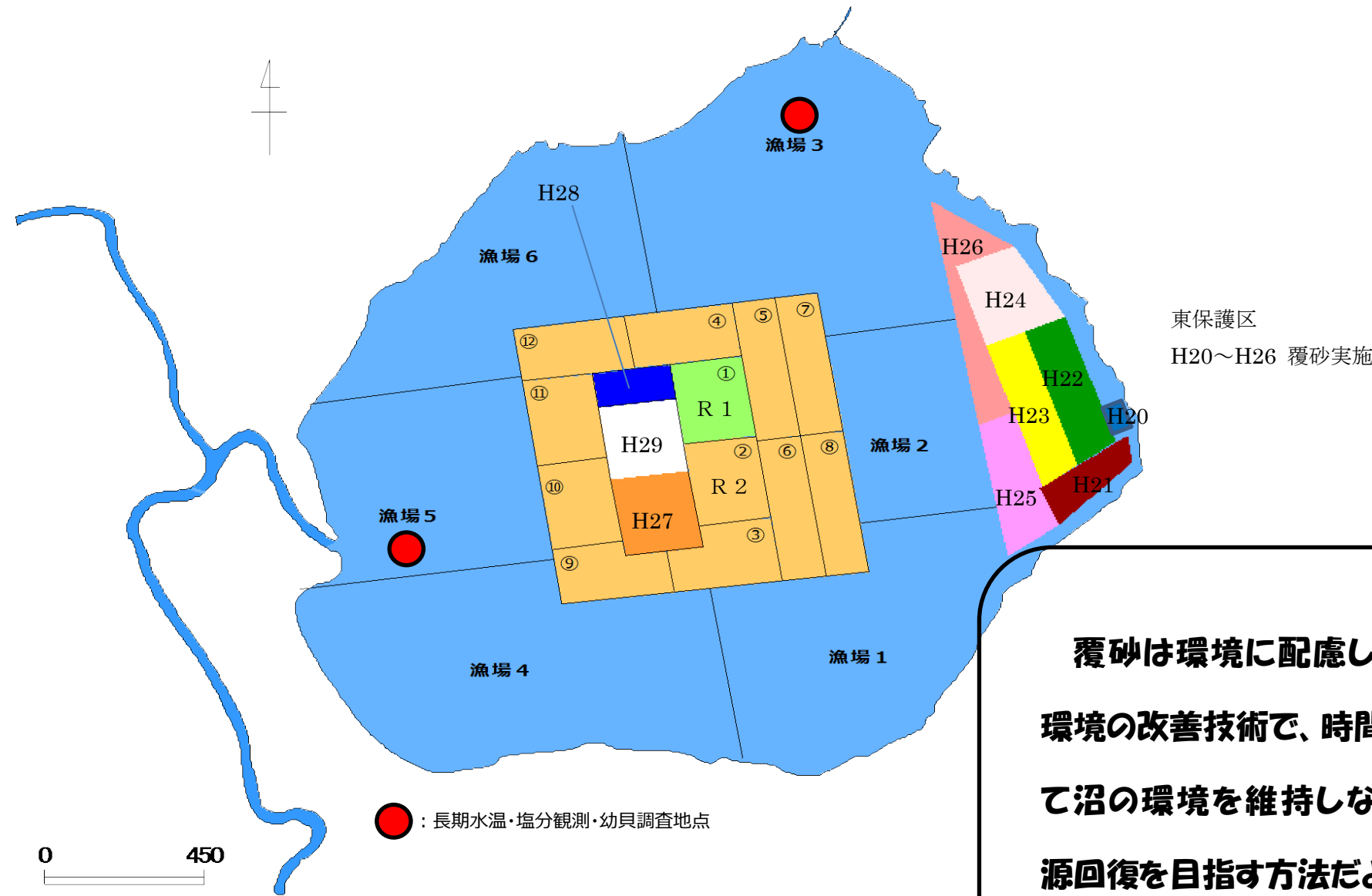
※覆砂～海底の有機物(ヘドロ等)に砂で蓋をすることで生物の生息しやすい環境を整える。ヘドロ等が堆積した内湾や河口等汽水域の環境改善技術にとどまらず、海砂採取や護岸工事により失われた浅場の復元技術としても有効

※シルト～水中に堆積した土のうち、粘土より粗く、砂よりは細かい程度の粒子の堆積物

※浮遊幼生～水生生物が幼生期を過ごすにあたり、水中を浮遊しながらプランクトンなどを餌として生活する様態

※着底稚貝～浮遊幼生期を経て、成貝になるための底生生活期を迎えた稚貝。成貝になるまでの長期間をこの状態で過ごす

【覆砂実施箇所位置図】



覆砂は環境に配慮した底生環境の改善技術で、時間をかけて沼の環境を維持しながら資源回復を目指す方法だよ！



	事業年度	覆砂面積(ha)
実績	H20	0.25
	H21	2.50
	H22	5.00
	H23	5.00
	H24	5.00
	H25	5.00
	H26	5.00
	H27	5.00
	H28	2.25
	H29	4.76
	計	39.76
計画	R1	5.00
	R2	5.00
	R3	5.00
	R4	5.00
	R5	5.00
	R6	5.00
	R7	5.00
	R8	5.00
	R9	5.00
	R10	5.00
	R11	5.00
	R12	5.00
	計	60.00
	合計	99.76